

外来種アメリカツノウズムシ *Girardia dorocephala* と  
アメリカナミウズムシ *G. tigrina* を群馬県で記録する

掛川 優子

Field Biologist 28巻2号, 別刷  
2023年5月  
群馬野外生物学会

記 録

外来種アメリカツノウズムシ *Girardia dorocephala* と  
アメリカナミウズムシ *G. tigrina* を群馬県で記録する

掛川 優子

The First record of alien species, *Girardia dorocephala* and *G. tigrina* (Tricladida: Dugesiidae) from Gunma prefecture

Yuko KAKEGAWA

1 はじめに

日本で見られる淡水生の外来プラナリアは、トウナンアジアウズムシ *Dugesia austroasiatica*, アメリカナミウズムシ *Girardia tigrina*, アメリカツノウズムシ *G. dorocephala* の3種で、1960年代のはじめから日本各地の熱帯魚の水槽や、温水の養魚池などで見つかった（川勝ほか 2008）。その後、アメリカツノウズムシとアメリカナミウズムシの野外定着個体群が、東京や神奈川をはじめ国内各地の中下流域の温水や汚濁した平地流で記録（仮同定の種の記録を含む）された（川勝ほか 2008）。近年では、山梨県（堀内 2010）、広島県（富川・鳥越 2011）、愛知県（西 2013）や埼玉県（石井 2013）などから報告されている。

筆者は群馬県藤岡市の神流川（図1A）で2010年10月25日にアメリカツノウズムシを、2011年11月15日にアメリカツノウズムシ（図1B）とアメリカナミウズムシを確認した。

すでに両種を筆者のWebサイト（<http://kawagera.sakura.ne.jp/>）で公表し2015年の群馬野外生物学会の公開講演会において発表しているが、学術誌における群馬県内の分布報告が見られないため、ここに報告する。

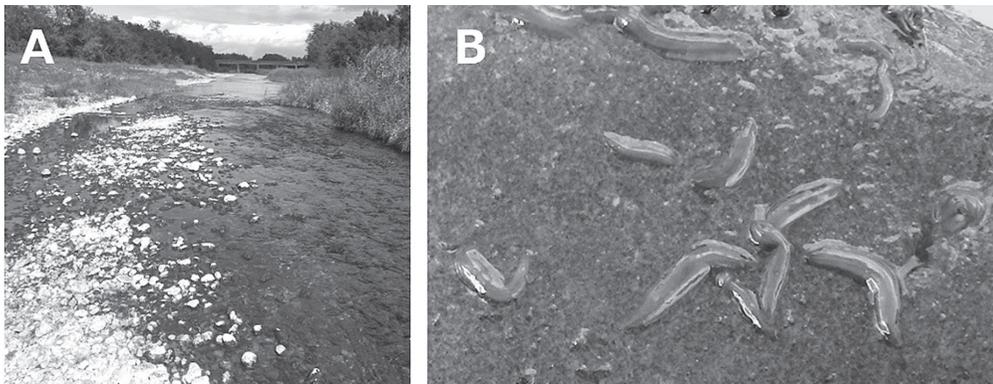


図1 A：神流川の採集地点. B：礫の裏に張り付いていたアメリカツノウズムシ  
Fig.1 Survey site (A) and *G. dorocephala* attached to the underside of a stone (B)

## 2 調査地

採集地点：群馬県藤岡市本郷 かな川水辺の楽校施設内，標高93m，経緯度:36° 13'18.85"N, 139° 5'6.70"E, (Google Earthより取得)

神流川は，群馬，埼玉，長野の県境が接する三国山にその水源を發し，下久保ダム下流から群馬と埼玉の県境を流れ，烏川に合流する利根川水系の川である．旧鬼石町より上流はV字谷を成す溪流であるが，藤岡市のあたりから緩やかな流れとなっている．

かな川水辺の楽校は，神流川の自然に安全に親しむために，その左岸高水敷に親水階段，散策路，ワンドや小水路を整備した約650mの施設である．この辺りの川幅（堤間幅）は約450m～500mで，水の流れている低水路の幅は約10mの礫床の平瀬であった．環境をスコア法（国土交通省2009）で試算すると，平均スコア値7.1で「上流域の良好な環境」であった．使用した試料は2010年10月25日採集の水生昆虫で，スコア値は改訂スコア表（案）（野崎2012）をもとにした．

## 3 調査方法

2010年10月25日に，筆者がかな川水辺の楽校施設内の水生昆虫生息調査を行った際，左岸沿いの河床の礫の裏に張り付いているウズムシを確認した．この状態では，在来のナミウズムシ *Dugesia japonica* と思われたが，この場所に多数のナミウズムシを確認したことがなく，また背面中央に黒い色がみられ，ナミウズムシとは様子が違うことから，外来ウズムシの可能性が考えられたため，10個体を生体のまま持ち帰り，冷蔵庫内で5日間飼育しながら，実体顕微鏡下で観察した．

翌2011年11月15日に同所で行った調査で採取した50個体も，同様に観察した．

種の同定は，「頭部の図解検索表」（川勝ほか 2007・2008）に従った．プラナリア類の種の同定には，生殖個体の連続切片標本の顕微鏡検査が必要（川勝ほか 2008）だが，外来種3種は川勝ほか（2007）の頭部の形状から，それぞれを区別できる．

## 4 結果と考察

両種ともに，水を入れたシャーレに個体を移すと，しばらくは動かずにいて，その時は体表の模様以外は在来のウズムシと酷似している．その後，活発に泳いだり這ったりして動き出すと，耳葉が伸びだし，それぞれの特徴が見られた．その耳葉の特徴や体表の模様から，アメリカツノウズムシとアメリカナミウズムシであることを確認した．

観察した個体は，生時の虫体の撮影を行い，75%エタノール液浸標本にした．画像から，外来種に詳しい司村宜祥氏（横浜市）に本種がアメリカツノウズムシとアメリカナミウズムシであると同定いただいた．

### アメリカツノウズムシ

*Girardia dorocephala* (Woodworth, 1897)

(図2)

標本：10個体 25-X-2010, 47個体 15-XI-2011.

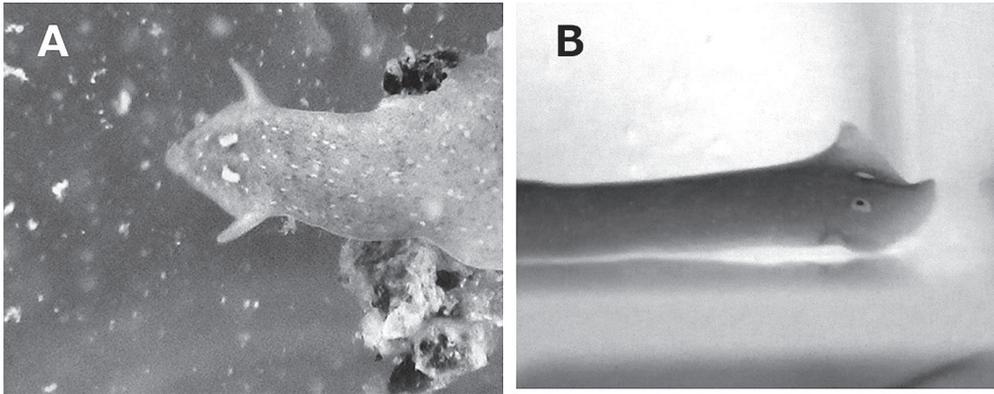


図2 アメリカツノウズムシの頭部。  
A：耳葉が長細く角状に伸びた状態。B：耳葉が鈍三角状に伸びた状態。  
Fig.2 *Girardia dorocephala*

採集した個体を水を入れたシャーレに入れ観察した。しばらくすると活発に泳ぎだし、だんだん体が伸び、耳葉も伸縮し始め、本種の特徴である角状に細くとび出た耳葉が確認できた。またそれが大きな三角状になり、ヒラヒラさせながら泳ぐこともあった。耳葉は常時出ではおらず、多様な形状に変化した。

アメリカナミウズムシ  
*Girardia tigrina* (Girard, 1850)  
(図3)

標本：3個体 15-XI-2011.

2011年11月15日に50個体を採集し観察したところ、ほとんどがアメリカツノウズムシであったが、中に体色が薄い個体を3個体確認した。

この個体は、本種の特徴である体表の模様がはっきりしていることと、泳ぎだすと、耳葉が三角に横に小さく張り出すが、アメリカツノウズムシのように角状に飛び出ないことが確認できた。

両種とも、水中を泳ぎだすと特徴である耳葉の形状が見られるが、礫に張り付いている状態では、在来のナミウズムシと酷似しているので、誤認することが懸念される。

国土交通省河川水辺の国勢調査データベースによると、アメリカツノウズムシは2011年1月27日に群馬県桐生川で確認され、2015年からはアメリカナミウズムシも共に烏川・神流川で多数の個体が確認されるようになった、と記されている。

藤岡市での現在の分布状況について、今後調査を行い明らかにしたいと考える。

謝辞

本報告は、長い時間がかかりましたが、本学会の諸先生にご助言いただき投稿することができました。また、水生昆虫懇話会の司村宜祥氏（横浜市）に種の同定をしていただきました。

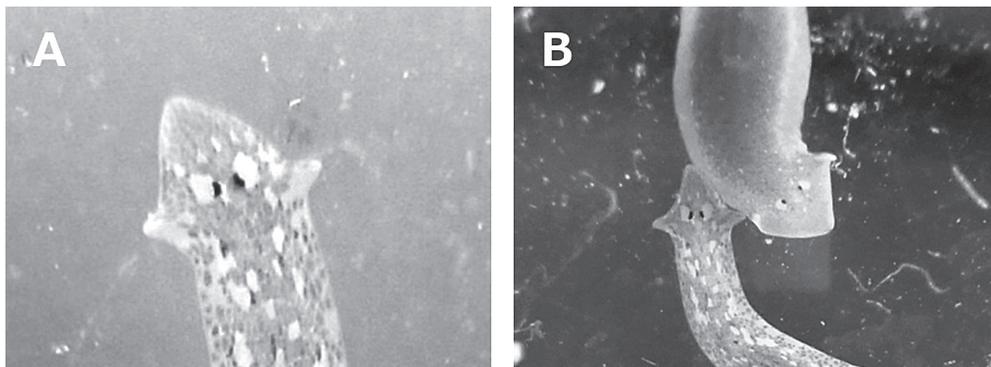


図3 A: アメリカナミウズムシの頭部。 B: アメリカナミウズムシ (下) とアメリカツノウズムシ (上) の頭部。体表の模様と耳葉の形状が異なる。

Fig.3 *Girardia tigrina*

心から感謝いたします。

#### 引用文献

- 堀内雅人 (2010) 山梨県における外来プラナリアの生息確認. 山梨県衛生環境研究所年報, 54: 80-84.
- 石井克彦 (2013) 荒川水系から発見されたプラナリアの外来種. 川博紀要, 13: 33-36, 埼玉県立川の博物館.
- 川勝正治・西野麻知子・大高明史 (2007) プラナリア類の外来種. 陸水学雑誌, 68: 461-469.
- 川勝正治・鶴田大三郎・木村知之・茅根重夫・村山 均・山本清彦 (2008) 日本の平地水域のプラナリア類—在来種と外来種の手引き  
<http://www.riverwin.jp/pl/flatland/Flatland%20FPs%202008%20Shibuki-%20tsubo%20in%20Jap.pdf>
- 国土交通省河川局河川環境課 (2009) 今後の河川水質管理の指標について(案) [改訂版]. スコア法: 43-44.  
[http://www.mlit.go.jp/river/shishin\\_guidline/kankyo/suishitsukanri/shihyou.pdf](http://www.mlit.go.jp/river/shishin_guidline/kankyo/suishitsukanri/shihyou.pdf)
- 国土交通省河川水辺の国勢調査 河川環境データベースシステム  
[http://www.nilim.go.jp/lab/fbg/ksnkankyo/dl\\_83\\_index.html](http://www.nilim.go.jp/lab/fbg/ksnkankyo/dl_83_index.html)
- 西 浩孝 (2013) 豊橋市の梅田川で外来種のプラナリアを確認. 豊橋市自然史博物館研究報告, 23: 22-28.
- 野崎隆夫 (2012) 大型底生動物を用いた河川環境評価-日本版平均スコア法の再検討と展開. 水環境学会誌, 35: 118-121, 社団法人日本水環境学会.
- 富川 光・鳥越兼治 (2011) 外来種アメリカナミウズムシ (扁形動物門, 三岐腸目) の広島県からの初記録. 広島大学大学院教育学研究科紀要, 60: 21-23.

(掛川 優子: 〒375-0055 藤岡市白石294-4)

2022年11月9日受理